

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区名	東住吉
学校名	南田辺小学校
学校長名	笹部 靖憲

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・南田辺小学校では、第6学年 135名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

「国語」平均正答率は、全国平均より2.2ポイント、大阪市平均より4ポイント上回っている。
 「算数」平均正答率は、全国平均、大阪市平均より2ポイント上回っている。『理科』は、「粒子」を柱とする内容では、全国平均から1.5ポイント低く、「地球」を柱とする内容も2.1ポイント下回る結果となった。無回答率では、「国語」で2.6ポイント、「算数」で2.7ポイント、「理科」で2.0ポイント、いずれの教科も全国平均より0.7~0.9ポイント良い結果となつた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

「国語」「書くこと」について理解しているかどうかをみる問題の正答率が昨年大阪市平均、全国平均には達していない結果となつたが、3.3ポイント上回った。そのほか、内容においても大阪府平均、全国平均を上回った。特に「情報の扱い方に関する事項」においては、全国平均より5ポイント大きく上回っている。
 「算数」「数と計算」について理解しているかどうかをみる問題の正答率が昨年、唯一大阪市平均、全国平均には達していない結果となつたが、1ポイント上回った。しかし、「変化と関係」においては大阪市平均、全国平均には達していない結果となつた。引き続き、基礎基本の学習をしっかりと取り組んでいく必要がある。そのほか、内容においても大阪府平均、全国平均を上回った。特に「図形」においては、全国平均より4ポイント大きく上回っている。
 今後も、学力向上支援チーム事業で大阪市総合教育センターから来ていただいているスクールアドバイサーの先生のもとで、研究授業を行い、指導助言を通して、教師の授業力を向上させていく。

質問調査より

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」を尋ねる設問に最も肯定的に答える児童が6割を超えており、全国・大阪市よりも大きく上回っている。今後も、自分が困ったときの助けを求めるようにお互いに、人の気持ちを大切にする力を伸ばしていきたい。
 ○「5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、自分の考え方や意見を発表する機会では、自分の考え方や意見をわかりやすく伝えることができる」との設問に最も肯定的に答えた児童が41.7%いる。大阪市・全国平均より10ポイント以上も高く、情報活用能力に自信がある児童が増えてきている。「読書は好きですか」との設問に「最も好き」と答える児童が52.8%全国平均を16%上回る。「あなたの家には、およそどのくらいの本がありますか」の設問には、「26~100」「100~200」冊と答える児童が多く、家庭、地域の読み聞かせ活動の協力によって、学びの環境が整ってきてている。昨年度、リーディングDXの指定校を受けたことでICT機器の活用率もあがり、クラウド環境をうまく使えるようになってきたことで、さらに協同的な学習もさらに取り組めるようにしていきたい。

今後の取組(アクションプラン)

○昨年度、リーディングDX事業の指定を受けたことで、児童の一人一台タブレットの活用能力を高まりつつある。一人一人に応じた学び方で「個別最適な学習」ができるように、今後課題である算数の「変化と関係」なども基礎力がつくように指導方法を充実させていく
 ○授業の導入時にめあてを示して学習の終わりに振り返る習慣を身につけ毎時の学びを確かなものとする
 ○交流活動を効果的に取り入れ、ICT機器を積極的に活用し、自分の考えを広めたり深めたりする場を設定すること等を通して、児童が主体的、対話的、深い学び迫ることができる授業展開をめざす。
 ○児童が、達成感・成就感を味わえるような体験学習の実施や指導者からのポジティブな声かけにより、自尊感情を醸成する。ビオトープで自然と触れ合える環境を活かし、子どもたちの興味関心を引き出し、自発的に学ぶ楽しさを習得させていく
 ○「分からぬことやくわしく知りたいこと」があつたときに、自分で学び方を考え、工夫できていないと感じている児童、わかるまで教えてほしいと思っている児童が1割以上いる。質の高い授業を目指し、学習において支援を必要とする児童に自信をつけさせていきたい。